

平成24年度 エネルギー科学研究科 公開講座

原子力利用における安全と防災の科学

1. 原子力発電と原子力防災

教授 三澤 毅

原子力発電はウランの原子核が2つに分かれる核分裂という反応により生じた熱エネルギーを電気に変換するもので、日本では1963年に試験原子炉で発電に成功して以来、今日まで59基の発電所が建設されました。本講座においては、原子力発電の仕組みとこれまでの安全対策の考え方、原子力発電の運転に伴って発生する放射性物質と放射線について説明し、その上で昨年3月に発生した東電福島第一発電所の事故の概要と原子力発電所の事故に備える原子力防災について説明したいと思います。

2. 原子力の安全と保全

准教授 森下 和功

福島第一原発で発生した炉心溶融、水素爆発、放射能放出等の事故の影響により、現在、将来のエネルギー選択についての国民的な合意形成が求められています。エネルギー選択には、技術的実現性、社会的受容性、経済や地球環境との適合性、工学的安全性など、幅広い見地からの総合評価が必要です。ここでは、特に工学的見地からの原子力安全について考えたいと思います。現在のプラントの状態を正しく把握し、未来の状態を予測し、必要に応じて修復措置を行う等、システムの安全性を維持するための保全活動、さらに、想定を越える事象が発生した場合の対応についての最近の動向を紹介し、事故を契機に、原子力安全に関する考え方が変わりつつあります。

日時：11月17日（土） 13：00～16：00
（15：00から1時間程度、講師を囲む意見交換会を予定）

場所：京都大学工学部2号館201講義室

- 定員：100名（当日先着順）
（受付開始12時より）
- 受講料：無料・申込不要
- 自家用車でのご来場は、ご遠慮ください。

（お問い合わせ先）
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学エネルギー科学研究科学術・管理掛
TEL：075-753-4744
FAX：075-753-4745

京都大学大学院エネルギー科学研究科